

国史跡上野城跡

(筒井氏の石垣見つかる?)

教育委員会では、平成19年度から国史跡上野城跡の城代屋敷地北西部の台所門跡周辺石垣の整備事業を実施しています。平成20年度の発掘調査は、昨年度の解体工事中に、藤堂時代の石垣の内側から検出された石垣を中心に調査を進めています。

内部の石垣は、南端で高さが約0.9m、南北方向の長さが約7.3m、東西方向の長さが約1.6mの石垣で、大変規模の小さいものです。解体された藤堂時代の石垣の内側で検出されていることもあり、確認されている城代屋敷地を描いた絵図のいずれにも描かれておらず、藤堂氏以前の筒井時代の石垣と考えられます。

写真からもわかるように、藤堂時代の石垣と比べると非常に石材が小さく、加工した跡である矢穴の残っている石材は3石しか見あたりません。石垣は途中から3段目を加えて北に高くなるよう作られています。南側の南隅石は明らかに角を意識している様です。西面の石垣はかなり未熟な作りの印象を受けますが、石と石との間には隙間を塞ぐ間詰め石を入念に配置し、石垣下部には角度を付けるために介石を置いて安定を図っています。

また、石垣の上部には、丁寧に粘土や炭状の土などを何層にも叩き締め土居状に版築した様子が観察されます。版築は、古代寺院などでよく用いられる手法ですが、城郭の石垣

上にこれほど丁寧にされることは非常に珍しいものです。さらに特徴的な点として、石垣の面に合わせるように50cm程の厚さで炭状の土を集中的に版築していることです。単なる土居ならば、このような炭状の土で区画する必要はないと思われ、何らかの化粧が施されたり、排水の役割を担っているなどさまざまな可能性が想定されます。

今年度からはいよいよ積み直し工事に入る予定です。今後は、発掘調査などの成果を基に石垣の整備を進めていきます。

しばらくの間、上野公園内のご利用、ご通行などでご迷惑をおかけいたしますが、皆さんのご理解ご協力をよろしくお願いします。

教育委員会生涯学習課 ☎22・9681



▲筒井氏の石垣（手前は解体された藤堂時代の石垣の根石列）

今年は丑年、伊賀牛だ。モ〜

豊かな土地と美しい水に恵まれた伊賀地方が生んだ伊賀牛をご紹介します。

伊賀牛とは伊賀市・名張市で肥育された雌の黒毛和牛のことであり、伊賀牛の大きな特徴は精肉店が枝肉を直接仕入れるのではなく、生きたままの状態を生産飼養農家から牛1頭を買い付ける生体取引が行われていることです。

また、年に数回伊賀牛の販売を促すためセリ（共励会など）が行われています。

生体取引の大きな特徴は、牛がどんな環境で肥育され、どんな餌を食べているかを販売元がすべて把握できる仕組みとなっています。

今では、伊賀産肉牛生産振興協議会の会員39戸で約3500頭の牛が肥育され、出荷頭数は年間約1900頭で、その約8割が伊賀管内の精肉店で販売されています。

また、表紙の数田さんの牛舎では、新たな食材供給促進事業として、多様なニーズに対応できる産地の育成や高品質化の促進に努め、安全・安心な食材を生産、供給するシステムを目指し、F1（黒毛和牛と乳牛を掛け合わせた交雑牛）繁殖雌牛を、耕作していない土地などに放牧活用し、地域の景観保全や活性化につなげています。



市の花
ササユリ



市の木
アカマツ



市の鳥
キジ